

会 議 録 （要旨）

会 議 名	第 7 回瑞穂町行政評価委員会
開 催 日 時	平成 2 4 年 6 月 2 7 日（水） 午前 1 0 時から午前 1 1 時 7 分まで
開 催 場 所	瑞穂町民会館第 1 会議室
出 席 者	出席者：村山委員長、大神田委員、栗原委員、中村委員、橋本委員 説明員 【ごみ収集とごみ減量対策事業】：臼井環境課長、町田清掃係長 【保育園運営事業】：横澤福祉課長、石川児童係長 【学力向上事業】：黒羽指導課長、片野指導係長 事務局：栗原企画課長、高橋企画係長、企画係鈴木
配 布 資 料	事前配布資料 ・平成 2 3 年度事務事業評価シート【ごみ収集とごみ減量対策事業】 【保育園運営事業】 【学力向上事業】 ・みずほの教育第 7 号、第 8 号、第 9 号
議 題	1 開 会 2 議 題 （ 1 ）平成 2 3 年度事務事業評価シートの外部評価について 【ごみ収集とごみ減量対策事業】 【保育園運営事業】 【学力向上事業】 3 その他
傍 聴 者	なし
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載。同一内容は一つにまとめた。）	1 開会 村山委員長から会議公開についての説明が行われ、会議が進められた。 2 議題 （ 1 ）平成 2 3 年度事務事業評価シートの外部評価について （栗原企画課長） 審査に入る前に、事務局より資料の確認及び事務事業外部評価の目的について説明があった。 【ごみ収集とごみ減量対策事業】 説明員から平成 2 3 年度事務事業評価シート【ごみ収集とごみ減量対策事業】に基づき、事業概要の説明があった。 （臼井環境課長） 内容・目的についての補足説明 廃棄物減量等推進審議会は、年 2 回開催している。 資源物集団回収の充実として、再資源化を推進する子ども会、町内会が行う集団回収の支援として、回収された資源物を 1 k g 当たり 1 0 円の奨

励金を支出している。

経緯についての補足説明

事業系一般廃棄物処理手数料の適正化を目的とし、20円から30円に改定した。

事前意見及び質問並びに説明員の回答

(栗原委員)

震災がれきの受入れに対して、町民から何らかの意見はあったのか。

(臼井環境課長)

7月14日に西多摩衛生組合で、住民説明会を行った。説明会では、9件の質疑及び意見があったが、受入れに対する反対意見はなかった。

土壌や農作物への影響に関する質疑と情報公表の要望があった。

(栗原委員)

広報みずほに差し込んだ独自の広報は今後も発行するのか。

(臼井環境課長)

今後も継続して行っていく。

(大神田委員)

事務事業評価シート1枚目の課題欄に平成21年度の総量(全体601t、事業系270tの削減)と記載しているが、シート3枚目の評価指標の項目と一致していないため、目標設定や予算の妥当性が不明確になると思われる。

(臼井環境課長)

事務事業評価シート1枚目の課題欄の数値は、事業系ごみの数値を挙げている。シート3枚目の評価指標は、ごみ総排出量で記載している。分かりづらい部分は、今後記載方法の工夫を検討していきたい。

質問及び説明員の回答

(橋本委員)

ごみの排出量の増減などは、グラフ化していただきたい。グラフ化すると見やすくなり、目標に対してどういう状況にあるのか把握でき、議論や評価もしやすくなるのではないか。

(栗原企画課長)

事務事業評価シートの様式は、事務局(企画課)で作成しているものである。補助資料で、グラフなどを用意することも今後考えたい。

(臼井環境課長)

広報みずほに前年度(平成22年度)比のごみの総量をグラフで掲載している。今後、さらに見やすいグラフにできるよう検討していく。

(村山委員長)

瑞穂町の「単位ごみ量は多摩地区の中でも少なくない」とあるが、理由はあるのか。

(白井環境課長)

中小企業が多いため、事業系ごみが多いことが要因の1つ考えられる。
事業系ごみの増加抑制策として、年4回の抜き打ち検査を実施し、資源化できる物が混入している場合は、指導を行っている。

(栗原企画課長)

平成21年度から広報みずほにごみ減量・環境・リサイクル特集号の差し込みを行い、ごみ減量の啓発を行っている。背景として、平成16年度から家庭ごみの一部有料化を行ったが、年数が経ち、手数料を支払っているからごみを排出しても良いだろうという意識が働いたのか、ごみ総量が増えつつあったことが挙げられる。

(栗原委員)

広報みずほに記事を掲載するなどごみ減量の地道な啓発活動は評価している。

(白井環境課長)

広報みずほに「ごみ会計」として、ごみ処理に係る経費を公表している。

(中村委員)

他市町村に比べごみ量が多いのは、瑞穂町は戸建てが多いため、庭で剪定した枝や落葉などがごみとして多く出されているのではないかと。もし、そのようなことであれば、補足説明やPRをした方がよいのではないかと。

(白井環境課長)

可燃ごみに剪定枝や落葉などが多く排出されているというデータはある。それらをごみとして出す場合は、乾かして水分の重量を減らしていただくようPRしている。

意見及び提言

(橋本委員)

ごみ減量の目標に対する成果が見えるようなグラフなどがあると良い。
また、ごみ処理にこれだけの経費が掛かっていることをさらにPRすることも必要と考える。

(栗原委員)

PR活動について、非常に高く評価している。すぐに成果は出ないと思うが、PRを続けていただきたい。

また、全町一斉清掃時に西多摩衛生組合の見学会を実施したことは非常に良かった。

【保育園運営業務】

説明員から平成23年度事務事業評価シート【保育園運営業務】に基づき、事業概要の説明があった。

事前意見及び質問並びに説明員の回答

(栗原委員)

加湿機能付空気清浄機は、何台をどこの園に設置したのか。設置台数と設置した園を教えてください。

(横澤福祉課長)

石畑保育園に2台、むさしの保育園に3台設置した。

(栗原委員)

とのがや保育園の開設、運営はスムーズに進行したのか。また、保育士の確保などは、問題なかったのか。

(横澤福祉課長)

保育士の確保に苦労したと聞いている。ハローワーク等で積極的に募集などを行ったとのことである。

開園当初は、新任保育士が多いこともあり、保護者から問合せ等が多くあったと聞いているが、現在は、問題なく運営している。

(栗原委員)

事務事業シート3枚目の予算・決算及びコメントの欄で、光熱水費(石畑保育園)とあるが、どうして石畑保育園だけなのか。むさしの保育園も以前は町立保育園だったはずだがどうしてか。

(横澤福祉課長)

石畑保育園は、児童館及び会館(町の施設)との複合施設のため、福祉課で一括して光熱水費を支払っているが、石畑保育園の使用分を計算し、保育園に請求をしている。

むさしの保育園は、町施設との複合施設ではないため、指定管理者が直接、支払っている。

質問及び説明員の回答

(橋本委員)

町内の保育園で、入所希望の偏りはあるのか。

(石川児童係長)

石畑保育園、むさしの保育園への入所希望が多く見られる。背景として、定員が多いこと、以前は町が直接運営していたこと、立地条件などが考えられる。

(中村委員)

瑞穂町の出生率をみると、今後、増園は必要ないのではないか。

(横澤福祉課長)

瑞穂町の出生率は年々減少していく傾向にあるため、現在の町内7園で

足りると考える。

意見及び提言

(村山委員長)

事務事業評価シート3枚目の予算・決算等の構成で、実際に予算措置をしていないものがある。このようなものは、削除すべきである。

(大神田委員)

「光熱水費(石畑保育園)」のように^{あん}按分処理をしているものがあれば、事務事業評価シート3枚目の予算・決算及びコメントの欄に、補足説明を加えることで、より事務事業評価シートがわかりやすくなる。

【学力向上事業】

説明員から平成23年度事務事業評価シート【学力向上事業】に基づき、事業概要の説明があった。

(黒羽指導課長)

内容・目的についての補足説明

すべての学級に学習サポーター制度を導入している。近隣自治体では、あまりないケースである。

平成20年度から瑞穂町独自に学力テストを開始し、平成23年度からは、中学3年生を対象に英語検定を開始した。平成21年度からは防衛省の再編交付金により教育向上基金を設置し、財源を充てている。これは、平成33年度まで行っていくこととしている。

また、豊かな心の育成として、中学生を対象に観劇なども行っている。

事前意見及び質問並びに説明員の回答

(栗原委員)

事務事業評価シートの事業概要の課題の欄で「瑞穂町の児童、生徒の学力は向上しつつあるが、まだ多くの課題がある」とあるが、具体的な課題の例を挙げていただきたい。

(黒羽指導課長)

基礎知識を使った応用力の向上が課題である。活用型の授業展開を目指し、応用力をつけていきたい。

中1ギャップという言葉があるが、小学校から中学校へ進学する際に環境の変化などで学習内容定着度が低くなる傾向がある。このことから小・中学校で協議会を設け、連携を図っている。

(栗原委員)

中学受験をして、町立中学校に進学しない、児童は何人いるのか。

(黒羽指導課長)

19人である。理由は、私立中学校等への進学である。

質問及び説明員の回答

(橋本委員)

瑞穂町の児童、生徒の学力は向上しつつあるというが、学力テストの平均点が上がっているということか。または、成績上位の人数が増えているということか。

(黒羽指導課長)

学力テストの目標値と平均値との差が縮まっている。

義務教育であるため、テストで結果が出せなかった児童、生徒の学力を上げ、平均的な学力層を増やしていくことが必要であると考えている。

(橋本委員)

テストで結果が出せなかった児童、生徒の学力向上に的をしぼった方が町としての目的が明確になるように感じる。

(黒羽指導課長)

具体的な施策として、学習サポーターの配置したことで、目標値と平均値のとの差が縮まっているという結果になっている。

(村山委員長)

事務事業評価シート2枚目、目標・成果等の今後改善すべき点で、「学習サポーターの中学校への配置をやめる」とあるが、どのような理由から廃止するのか。

(黒羽指導課長)

中学校の学習サポーターになるためには、数学、英語の教員免許が必要であり、人員の不足も理由の1つである。また、効果的ではないため、廃止した。学ぶ姿勢などを示すために小学校低・中学年に重点的に配置することとした。

(栗原委員)

高校受験の形態は多様化しているのか。

(黒羽指導課長)

都立高校の推薦入試を受ける生徒は半数以上である。近県では推薦入試を廃止する動きがあるが、東京都は入試の内容を変えて、継続する方向である。

意見及び提言

(中村委員)

数学、英語、科学など、今後どのように社会生活に生かせるのかが生徒にはわかりづらいと感じる。

学校に企業のエンジニアなどを派遣し、身近な技術について、実際に体験させると生徒達が実感しやすいのではないか。

多くの一般企業は、申し入れがあれば無償で派遣を行っている。

3 その他

委員からの発議等

なし

事務局提案

行政評価委員会並びに各分科会の日程調整を電子メール、又はファクスで行いたい旨の提案があった。

各委員から異議はなく、今後はこれらの方法で日程調整を行うことになった。

閉会 午前 11 時 7 分